

市議会2月定例会

平成30年度  
一般会計  
当初予算

5,544億5千万円  
を決議し閉会

さいたま市議会2月定例会（2月6日開会）は3月16日、平成30年度当初予算等を議決し閉会しました。

新年度の予算では、安心して子どもを産み育てられる環境整備や高齢者が健康で元気に生活できる環境の整備など、教育や福祉分野に重点的に配分した内容となっています。また、交通結節点の利点を生かした東日本の中枢都市づくりを加速化させ、都市機能の充実やインフラ整備、防災対策の強化等の未来に向けた積極的な投資を進め、より多くの市民が魅力を感じ、住みやすいと思う都市の実現に向けた内容となっています。



平成30年度  
当初予算

注目すべき主要内容

(単位:千円)

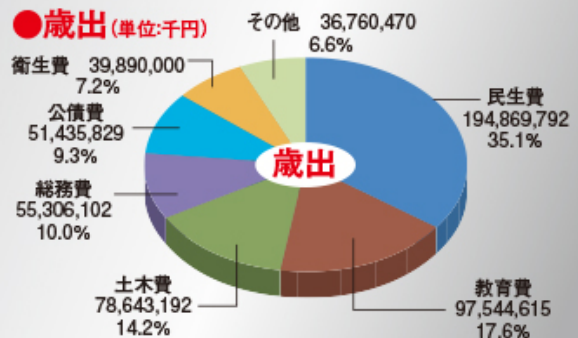
- 赤ちゃんとお母さんの心と体をケア.....43,968  
妊娠・出産から育児まで切れ目ない包括支援の充実
- 住み慣れた家で健康で暮らすために.....39,510  
在宅医療と介護サービスの連携を推進
- 未来を切り拓く子どもたちを育てる.....629,954  
グローバル化に対応した小・中一貫した英語教育の推進
- 流通と観光がコラボした新たな産業拠点の整備.....51,265  
(仮称) 農業および食の流通・観光産業拠点整備事業
- 更なる成長めざし新たな産業集積拠点の創出.....82,534  
戦略的企業誘致事業の推進
- さいたま市が繋ぐ東日本の活性化プロジェクト.....267,109  
(仮称) 東日本連携支援センターの設置
- 政令指定都市15周年記念花火大会.....55,000



市民の皆さまと政令指定都市移行15周年を祝うため、従来の3会場で開催されている花火大会とは別に、荒川河川敷（荒川総合運動公園周辺）を会場に大花火大会を開催します。

市民の皆さまと政令指定都市移行15周年を祝うため、従来の3会場で開催されている花火大会とは別に、荒川河川敷（荒川総合運動公園周辺）を会場に大花火大会を開催します。

平成30年度当初予算(一般会計)



※当初予算上程後、国から約7億3千万円の補助が決まり、平成29年度内の減額補正予算が追加上程されました。補正後の一般会計予算は、約5,537億2千万円となります。

# 会派を代表し登壇 議案に対して質問・提言

市議会2月定例会では、自民党さいたま市議会議員団(団員14名)を代表し議案に対する質問を行いました(2月7日)。

## 平成30年度一般会計予算、国の補助制度の活用について

予算編成にあたり国からの補助に対してどのような取り組みをしてきたのかを伺いました。

市は「市が独自に行う要望活動や地方自治体が連携して実施する要望活動などを行っており、その成果として今回の国庫補助金の確保に繋がっている」との説明でした。

**さいたま市は「東日本の中枢都市」として重要な自治体であり、「未来への投資」を積極的に行うべきだと考えています。そのためには今までの取り組みに加え、議員や各団体など、もっと広範囲の連携を取り、国から少しでも多くの補助を受けられるよう知恵を絞って取りまなければなりません。これからも市に対し強く働きかけなければと考えています。**

## 「働き方改革」について

仕事内容や量を見直すことが、労働時間の是正に向けての第一歩だと思っています。それには各事業を精査し、事業の「質」を維持しながら「スクラップ&ビルド」を行っていくことが必要であり、予算編成においてどのように取り組んだのかを伺いました。

市は「予算要求にあたっては職員の時間外勤務の縮減等も勘案しながら、主体的かつ責任を持って事業の見直しや改善を行ってきた。事業の廃止や統合、会議等の回数の見直しなどをはかり、歳出予算の削減は元より職員の勤務時間の削減にも繋がっている」との回答でした。

**「働き方改革」は現在、国でも議論が進んでいますが、具体的な効果を上げるためには職員や組織の意識改革が重要です。今後も市の取り組みを注視しながら、さまざまな提言をしていきたいと考えています。**

## 予算委員会にて

### 脱炭素化社会の研究継続を確認

桜区内(埼玉大学の前)で市がホンダと共同で行っているスマートホームシステムの実証実験について、平成29年度末で契約終了になることから、現況と今後の展望について質問しました。

市は「現時点でCO<sub>2</sub>の排出量ゼロには至っていない。また新しいライフスタイル、脱炭素でありながら快適で豊かな暮らしを実現するための新たな指標、持続可能な開発目標(SDGs)も取り入れながら、引き続きホンダと共同研究を進めていく」との答弁を引き出すことができました。

**このような先進的な研究施設を、未来を担う子どもたちにぜひ見てもらいたいと考えています。今後、見学などの対応を市に働きかけてまいります。**



## お菓子工場の観光資源化始まる

昨年12月の一般質問で、本市西側地域にはお菓子工場が多くあり、新たなまちづくり・観光資源になり得るのではないかと提言をしたところ、早速、**市発行の「さいたまスイーツタイル100」に、市内のお菓子工場が掲載されました。**ぜひ皆さまに見ていただきたいと思います。

これを契機に、地域に密着した「ご当地商品」の開発からインフラ整備まで、広く展開していければと考えます。例えば、荒川堤防にあるサイクリングロードも、地域の観光資源と結びついた「休憩」スペースを設けるなど、近隣の車道・歩道とあわせて総合的に整備を進めていくことができればと考えています。



## コミュニティバス 新ルート調査・検討へ

平成28年度の一般質問で、桜区の公共交通の充実を目指し、新ルート(中央区をまたぐ)によるコミュニティバスの導入を提案しました。平成30年度予算では、**新ルートに関する調査・検討及び、実証実験に移行する際の予算を確保**することができました。まずはアンケート調査からスタートする予定ですが、現段階は地域の合意形成の最中であり、まだ時間を要すると思われる。実現に向け尽力していきたいと思っています。



さいたま市政への皆さまの声、ご意見・ご要望をお寄せください。

土橋勇司 政務活動事務所 〒338-0814 さいたま市桜区宿110-4

TEL : 048-854-7918 / FAX : 048-854-7786

E-mail : Info@y-dobashi.sakura.ne.jp

http://y-dobashi.jp/

～フェイスブックでも情報発信中!!～

